

**【研究主題】**

自ら進んで考え、判断して、よりよく生きようとする児童の育成  
—「特別の教科 道徳」における主体的・対話的で深い学びを通して—

## 第4学年 道徳科学習指導案

日時 平成30年5月30日(水)第5校時

第4学年2組 33名

授業者 矢野 篤彦

1 主題名 『自信を持って』(善悪の判断、自律、自由と責任 A—(1))

2 ねらいと教材名

(1) ねらい 正しいと思ったことは自信をもって行うこと

(2) 教材名 ドッジボール(『新しいどうとく』東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

正しいことを判断することは、よりよく生きていく上で最も重要なことの一つであると言える。また、正・不正を見極め、判断し、自信をもって正しいことを実現しようとすることは、自己を実現する原動力になるものである。その一方で、正しいことが何か分かっている、周りの環境や様々な条件が影響し、正しいと思う行動ができずに思い悩むこともある。葛藤を超え、正義を実現するための自信の意義について考えたい。

(2) 児童の実態

【道徳アンケートから】

質問 あなたは、正しいと思ったことは自信をもって行っていますか。

(平成30年2月20日 計65名で実施)

| 質問 | とてもあてはまる | あてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない |
|----|----------|-------|------------|---------|
|    | 50%      | 42%   | 8%         | 0%      |

アンケートの結果から、92%の児童が「正しいと思ったことは自信をもって行っている」と考えていることが分かる。しかし、「とてもあてはまる」と自信をもって答えた児童は50%にとどまり、「あまりあてはまらない」と答えた児童の8%と「あてはまる」と答えた児童の42%を合わせると、半数の児童は何かしら自信をもてない要素を抱えていることも見てとれる。

また、正しさをどのように捉えているかについては、個人差があることも推測される。自信をもって児童の中には、単にルールの通りにすることが正しいと考えている可能性もあるし、自信をもてな

い児童の中には、様々な状況や相手といった条件の中で何が正しいことなのかを考えて選ぶことの難しさを体験的に知った上で自信をもてないと考えている可能性もあるからである。

現に、日常生活の中で、「自分の正しさと友達の正しさは違うこともある。」と発言する児童や、相手の言っていることが正しくないと分かっているにもかかわらず相手の性格や気持ちの弱さを思いやって譲歩するといった大人の姿を見せる児童もいる。そういった児童が、自分が正しいと思ったことを自信をもって行っているかと問われ、「とてもあてはまる」と答えることに躊躇い、葛藤する気持ちは想像に難くない。

多様な価値観が存在し、様々な判断が求められる現代社会の中で、児童はルールを盾にした主張だけでは物事を解決できない場面にも遭遇していくことになる。また、白黒がはっきりつけられないグレーゾーンの中で判断することも生きる上では必要なこともある。そういった場面に遭遇した際、社会という人と人のつながりの中でお互いに調和しながらよりよく生きるために重要なのは、自分にとっての正しさを主張するだけでなく、相手の立場や気持ちを思いやった上でルールを伝えたり、自分の考えを伝えたりすることである。

そのように考えると、正しいことを自信をもって判断するためには、一時の感情に流されず、いくつかの選択肢を想定した上で、どの選択がよりよい結果を導き出すのかを理性的に考えて決断することが必要だと言える。言い換えれば、よりよい判断をするためには、悩み葛藤することが前提条件となるのである。

今回の授業では、教材の中の登場人物の立場になり、それぞれが考えたことを自分に置き換えて考えた後、どうしたら自信をもって行動することができるかを問う。その過程を通して、自信をもつためには葛藤が必要であることや、葛藤する自分が正しいことに気付かせ、児童がよりよい行動を選択するための判断力を養いたい。

### (3) 教材について

本教材は、児童が日頃からよく遊んでいるドッジボールを題材にしており、学習への興味・関心を高めやすい内容である。

昼休みに学級のみんなでドッジボールをしていたが、いく子の投げたボールに当たったはずの一郎は、「バウンドしたボールだ。」と怒ったように言う。明も当たったと言うが、周りはいつもいぼっている一郎の味方をする。しかし、いつもはあまり口をきかない登が、帰りの反省会で正しい意見をはっきり述べてみんなに反省を促す。正義や勇気の大切さを深く感じ取れる教材である。

登の周りの状況に負けずに正しいことを周りに伝えようとする姿に触れることで、様々な葛藤を超えて自分が正しいと思うことをするための自信の大切さを感じ取らせたい。

## 4 ブロック分科会の取組

### (1) 指導案作成において課題になったこと

- ・グループワークをしても、自分の考えを伝えて終わりになってしまう児童が多い。話し合いで考えが深まらない。
- ・教材の内容について話し合った後に自分のことをふりかえって考えを書かせる際、漠然とした考えしか出てこないことが多い。

- ・ 1時間の授業の中で、児童の考えがどれだけ変容したり、深まったりしたかを見取る方法。

(2) 指導案作成までの取組

- 5月10日 第1回指導案検討で、全体の流れについて話し合う。  
分科会で検討後、校長先生と流れについて検討。
- 5月14日 第2回指導案検討で、後段の展開について話し合う。  
分科会で検討後、校長先生と後段について検討。
- 5月18日 第3回指導案検討で、研究主題に迫るための手立てについて話し合う。  
分科会で検討後、校長先生と後段とワークシートについて検討。
- 5月21日 校長先生と発問、ワークシート、指導案の様式について検討。

5 研究主題に迫るための手だて

|                       | 主体的な学びを導くために<br>(他人事ではなく、自分自身<br>のこととして考えるために)  | 対話的学びを導くために<br>(友達の考えから共通点や<br>相違点を発見するために)                                      | 深い学びを導くために<br>(自分の考えをより深めたり、<br>改めたりするために) |
|-----------------------|---|--|--|
| 発問の工夫                 | <登場人物への感情移入><br>前段では、明や登が葛藤した<br>時の気持ちを考えさせること<br>で、不安な気持ちや葛藤する<br>気持ちに共感させ、不安に思<br>ったり、葛藤したりすること<br>が自然で、大切なものである<br>ことに気付かせる。 |  |  |
| 学習形態の<br>工夫           |   | <グループワーク><br>考えを伝え合う際、伝えて<br>終わりにならないよう、出<br>てきた考えに対して一人一<br>言ずつ意見を言うようにさ<br>せる。 |  |
| 児童の意識<br>把握のため<br>の工夫 | <事前のアンケート調査><br>導入部で、ねらいとする道徳<br>的価値に関するアンケート<br>結果を見せ、道徳的価値をど<br>う捉えているのかについて児<br>童に問い、児童自身が抱えて<br>いる問題点に気付かせる。                |  |  |

|          |  |  |   |
|----------|--|--|---|
| 評価のための工夫 |  |  | <ワークシート><br>自分の考えを書き、全体で考えを伝え合った後で感想を書かせることで、他の視点を取り入れた考えを評価できるようにする。 |
|----------|--|--|---|

## 5 中学年分科会の中で話し合われた課題

### (1) 教科書以外の教材について

教科化に伴い、教科書が配布されるようになったが、それ以外の教材も使用した方がいいのか。

### (2) 教材の効果的な提示の仕方

授業の前段の段階で教材を読み取る際、教師の範読を聞かせながら文章を読ませる方法や、電子黒板等を使ってイラストを見せながら聞かせる方法があるが、より内容を深く理解させたり、共感させたりするにはどの方法が効果的なのか。

### (3) 後段への展開について

教材で道徳的価値について考えさせた後、どうすれば効果的に自分のことをふりかえらせることができるのか。

### (4) 考えの共有化について

グループや全体で考えを共有する際、自分の考えを伝えるだけで終わってしまい、議論したり、深く掘り下げたりすることができない。

## 6 本時の過程

### (1) 本時のねらい

明や登が正しいと思ったことを自信をもっていうことができた気持ちの変化を自分のこととして受け止めて、正しいと思ったことを自信をもって行おうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

### (2) 展開

| 過程 | 時間 | 学習活動 (○発問 ◎中心発問 ・予想される反応)  | ◇指導上の留意点 ◆評価 (方法)  |
|----|----|--|--|
| 導入 | 5分 | 1 アンケートの結果を見て、「自信」について話し合う。<br>○自信をもって行動できる時はどんな時か。<br>・自分がルールを守っている時。<br>・みんなと考えが一緒の時。<br>○自信をもって行動できない時はどんな時か。<br>・自分が正しいかどうか分からない時。<br>・みんなが自分と違う意見を言っている時。 | ◇本時で学習する価値への方向付けをはかる。<br>◇自信をもてない時ともてる時の違いを明確にすることで、自信をもつことの難しさに気付かせる。 |
|    |    | 2 今日の授業で、みんなで考えたいことを伝える。   | ◇何人かの児童の考えを取り上げて黒板に板書し、イメージをもたせてから前段                                   |
|    |    | <めあて>自信をもって行動するためには、どのようなことが必要か考えよう。   |  |

|          |         |   |   |
|----------|---------|---|---|
|          |         |   | に進む。  |
| 展開<br>前段 | 10<br>分 | <p>3 「ドッジボール」を読んで話し合う。</p> <p>○どうして明は、はじめのうちはだまっていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一郎はいつもいばっていて、怖いから。</li> <li>・みんなが一郎をかばっていて、仲間外れにされるかもしれないから。</li> <li>・自分も一郎と同じ白組だから。</li> </ul> <p>○反省会でどうして明は真っ先に手を挙げて言ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールは守らないといけないから。</li> <li>・みんながつまらなくなるから。</li> <li>・ずるいことを認めたくないから。</li> <li>・いく子がかawaiiそうだから。</li> </ul> <p>◎いつもあまり口をきかない登が立ち上がって言ったのはどうしてなのでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一郎の言いなりになっていることが嫌だから。</li> <li>・クラスをよくするチャンスだと思ったから。</li> <li>・正しいことを言った明が仲間外れにされるかもしれないから。</li> </ul> | <p>◇登場人物が多いので、電子黒板上に場面絵を映し、分かりやすく整理する。</p> <p>◇強い人の発言には、反対しにくい雰囲気があることを押さえる。</p> <p>◇ずるやルール違反を認めていたら、みんなが嫌な思いをするし、楽しくなくなってしまうことを押さえる。</p> <p>◇登も最初から自信満々でみんなに考えを伝えたわけではなく、不安をもって悩んだ末に決断したことを押さえる。</p> |
| 展開<br>後段 | 20<br>分 | <p>4 自信をもつために大切なことについて、自分の考えをワークシートに記入する。</p> <p>○自分が「自信」をもって何かを言ったり、何かをしたりするためにはどのようなことが大切なのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや決まりを確かめること。</li> <li>・事実かどうかをしっかりと確認すること。</li> <li>・みんなにとって本当に大切なことは何なのかよく考えること。</li> </ul> <p>5 グループで考えを伝え合う。</p> <p>6 全体で考えを伝え合う。</p>  | <p>◇何を書けばいいか分からない児童が出ないよう、書く前に周りの子と相談する時間を与える。</p> <p>◇理由も書くように指示を出す。</p> <p>◇友達の考えに対して、一人一言ずつ意見を言うように指示を出す。</p> <p>◇出てきた考えを端的に板書し、自分の考えと比べさせる。</p>   |
|          |         | 7 友達の考えを踏まえ、自分にとっての納得解を書く。  | ◇友達の考えを踏まえた上で、もう一度考えを書かせる。自分に足りなかったことや  |

|           |            |   |   |
|-----------|------------|---|---|
| <p>終末</p> | <p>10分</p> | <p>7 全体で感想を伝え合う。</p> <p>8 教師による学習のまとめを聞く。</p> | <p>今後こうしていきたいといった感想を最後に加えて書くと更に良いことを伝える。</p> <p>◆友達の考えを認めながら自分の考えを振り返り、考えや自信を深めたりすることができたか。(ワークシート)</p> |
|-----------|------------|---|---|

(3) 評価

友達の考えを認めながら自分の考えを振り返り、考えや自信を深め、道徳的実践意欲を高めることができたか。

板書計画

自信をもって行動できる時

- ・ ルールを守っている時。
- ・ みんなと考えをいっしょの時。

自信をもって行動できない時

- ・ 自分が正しいかわからない時。
- ・ みんなの考えが自分とちがう時。

自信をもって行動するためには、  
どのようなことが必要か？

「ドッジボール」

明が、はじめにだまっていた理由は？

- ・ こわい。
- ・ 仲間外れにされるかも。
- ・ 自分も白組。

反省会で、明が真っ先に発言した理由は？

- ・ ルールは守らないといけない。
- ・ ずるをみとめたくない。
- ・ みんながつまらなくなる。

いつも大人しい登がは発言した理由は？

- ・ 一郎の言いなりになっているのがいやだから。
- ・ クラスをよくするチャンスだと思ったから。
- ・ 明が仲間外れにされるかもしれないから。

自信をもって行動するために必要なことは？

- ・ ルールや決まりをたしかめること。
- ・ 事実かどうかをしっかりとたしかめること。
- ・ みんなにとって大切なことをよく考えること。

ワークシート

道徳ワークシート 「ドッジボール」

年 組 名前： 月 日

自分が「自信」をもって何かを言ったり、何かをしたりするためには、どのようなことが大切でしょうか。

←

友達の考えを参考にしてみよう。

〈感想〉友達の考えを聞いた上で、自分の考えをもう一度書いてみましょう。

